

文学研究科【教育課程の編成・実施方針】

〔博士前期課程(修士課程)〕

日本文学・日本語文化専攻博士前期課程は、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととする。

1. 講義科目として、日本の古典・近代文学、日本語及びそれを取りまく文化、そしてそれらの前提となった漢文学などに対応する特論科目を置き、各分野に関するこれまでの研究成果に深く学びつつ、今日的研究課題を見いだす能力を養成するものとする。
2. 演習科目として、前項特論科目に連結させた、日本文学・日本語文化及び漢文学に関する読解を主とした科目を置き、個別の資料やテキストについて、その意義や価値を正しく評価し、また新たな意義や価値を見いだす能力を養成するものとする。
3. 課程修了までに、各学生の修士論文テーマに近接する時代または分野のみにとどまらない、複数の時代または分野の特論科目と、それに連結する読解を主とした演習科目を選択履修することにより、課程修了後の多様な進路に適合させるものとする。
4. 研究指導を必修科目とし、1年次より連続して同一の教員のもとで Semester ごとに示される到達目標に沿い、修士論文の作成に直結する指導を段階別に受けるものとする。
5. 国語教育や書道教育に直結する科目を置き、課程修了後の進路に活かすものとする。

歴史文化専攻修士課程は、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととする。

1. 基盤科目として、研究倫理と修士論文作成の基本に関する講義形式の必修科目を置き、1年次のうちに歴史文化を専攻する研究者として必須となる素養やふるまい方を修得するものとする。
2. 専攻基礎科目として、日本史の各時代、民俗、思想史、日本史を取りまく国際環境などに対応する講義形式の特論科目を置き、各分野に関するこれまでの研究成果を深く学びつつ、今日的研究課題を見いだす能力を養成するものとする。
3. 専攻応用科目として、前項特論科目に連結させた、日本史の各時代または分野に関する史資料研究の演習科目を置き、個別の歴史資料や史跡、伝統的習俗について、その意義や価値を正しく評価し、また新たな意義や価値を見いだす能力を養成するものとする。
4. 課程修了までに、各学生の修士論文テーマに近接する時代または分野のみにとどまらない、複数の時代または分野の特論科目とそれに連結する史資料研究の演習科目を選択履修することにより、課程修了後の多様な進路に適合させるものとする。
5. 研究指導を必修科目とし、1年次より連続して同一の教員のもとで Semester ごとに示される到達目標に沿い、修士論文の作成に直結する指導を段階的に受けるものとする。

6. 歴史教育や博物館資料学に直結する科目を置き、課程修了後の進路に活かすものとする。

〔博士後期課程〕

日本文学・日本語文化専攻博士後期課程は、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととする。

1. 講義科目として、日本の古典・近代文学、日本語及びそれを取りまく文化、そしてそれらの前提となった漢文学などに対応する特論科目を置き、各分野に関するこれまでの研究成果を深く学びつつ、今日的研究課題を見いだす能力を養成するものとする。
2. 演習科目として、前項特論科目に連結させた、日本文学・日本語文化及び漢文学に関する読解を主とした科目を置き、個別の資料やテキストについて、その意義や価値を正しく評価し、また新たな意義や価値を見いだす能力を養成するものとする。
3. 課程修了までに、各学生の研究テーマに近接する時代または分野のみにとどまらない、複数の時代または分野の特論科目と、それに連結する読解を主とした演習科目を選択履修することにより、博士論文の作成に役だたせるよう配慮する。
4. 研究指導を必修科目とし、1年次より連続して同一の教員のもとで学年ごとに示される到達目標に沿い、博士論文の作成に直結する指導を段階別に受けるものとする。